

議 事 録

件 名	第 32 回 児童虐待防止対策委員会	
日 時	令和 7 年 6 月 24 日（火）14:00～15:30	
場 所	久留米市役所 3 階 301 会議室	
出席者	委 員	吉岡委員長、佐田副委員長、重永委員、麻生委員、堀江委員、野口（美）委員、竹下委員、乙丸委員、枕島委員、野口（晶）委員、田中委員
	事務局	（家庭子ども相談課）緒方補佐、佐々木 （安全安心推進課） 山下主幹、新村補佐
欠 席 者	早川委員、西村委員、武藤委員	
傍 聴 者	なし	
次 第	1. 開会 2. 協議事項 （１）2024(令和 6)年度取組実績及び 2025(令和 7)年度取組方針(案)について （２）取り組みの見直しについて 個票 2-③ 児童虐待防止啓発事業 の中期評価の見直し （３）セーフコミュニティの次期国際認証について （４）みんなでセーフコミュニティ賞について （５）Instagramを活用した情報発信について 3. その他 （１）令和 7 年度セーフコミュニティ会議等スケジュール（案） （２）SC 標語募集について 4. 閉会	
質 疑]	<u>1. 開会</u> ・事務局より開会 ・傍聴者の確認「なし」 <u>2. 協議事項</u> <u>（１）2024(令和 6)年度取組実績及び 2025(令和 7)年度取組方針(案)について</u>	
委 員 ①	P.6 2-② 赤ちゃんふれあい体験 1 ブロック目 課題 客観的課題 「親になるための教育が十分でないと感じている保護者が 30%近くいる」について この数字は、どのような調査の根拠によるものか。アンケートを取っているのか。	
事 務 局	赤ちゃんふれあい体験をセーフコミュニティの取組に取り入れる時に活用しているが、いつ頃のアンケートなのかこの場では分かりかねる。	
委 員 ①	どのような状況でこの内容が調べられるのかと思い質問した。	

委 員 ②	市民意識調査ではなかっただろうか。 現在の市民意識調査にこの項目はないので、当時の調査項目ではないだろうか。
委 員 ②	P.5 <u>2-①</u>新生児訪問事業の地域連携 8 ブロック目 2024 年度の実績（活動実績）について 「市内 23 校区」で実施しているということは、逆にいうと、あと 20 校区は実施していないということ。 どのように努力すれば、実施校区が増えていくのか。
委 員 ③	令和 4 年には 4 校区でしか実施されていなかった。 3 年ほど前から、久留米市民生委員児童委員協議会に協力いただき、会長会や主任児童委員正副ブロック長会等で説明する機会をもった。そのような取組を通して、令和 4 年は 4 校区、令和 5 年は 18 校区、現在は 23 校区と着実に実施校区が増えてきている。主任児童委員同士がお互いに声掛けをすることで、自分たちの地域でもやりたいと声を上げる人もいると聞いている。現在の取組をしっかりと継続していく中で、できる範囲でやってみようと思う主任児童委員が増えていくのではないかと考えている。
副 委 員 長	これまでほとんど啓発活動をしていなかった。3 年前から、こども子育てサポートセンターの保健師から説明を聞き、どのような活動をしていくのかを検討した。この事業は、保護者と日程調整をして訪問することが前提にある。各校区に 2 人から 3 人の主任児童委員がいるものの、フルタイムで仕事している委員もあり、訪問日程の調整が課題となっている。年々少しずつ取組校区は増えており、今後増えていけばと考えている。引き続き主任児童委員に啓発していく。
委 員 ②	私たちの啓発力が大事になっていくということ。 <u>（2）取組の見直しについて</u> <u>個票 2-③ 児童虐待防止啓発事業</u> の中期評価の見直し
委 員 ④	「児童からの相談件数」について 中学校でも SOS の出し方教室を実施してもらっていて、とても良い取組だと感じている。 子ども自身が自ら SOS を出せる力を持つことは非常に良いと思う。 ここでいう「児童」の定義は、小学校 1 年生から 6 年生まででよいのか。
事 務 局	ここでの「児童」は、18 歳までである。小学生だけではない。
委 員 ④	学校では、中学生を「生徒」、高校生も「生徒」という言い方をする。ここでの「児童」という定義に 18 歳までを入れるのは、一般的には分かりにくいのではないか。

委 員 ②	児童福祉法では「児童」は、18 歳未満の未婚の者を指す。そのため、ここでの「児童」の定義は 18 歳未満である。省庁によって「児童」の捉え方は違う。
委 員 ④	「こども」がよいのかどうか分からないが、一般的に市民の方は「児童」と聞くとどのように捉えるのかと感じ質問をした。
委 員 ③	こども基本法では、平仮名の「こども」を、心身の発達の過程にある者と定義しているため、「こども」とするとそれもまた混乱を招くと考える。年齢の幅も広くなってしまうため、「こども」の表現には工夫が必要と考える。
委 員 長	定義の捉え方が違うと、ここには中高生の年代が該当しないと思ってしまう人がいるかもしれないということ。
委 員 ④	そうである。小学校 4 年生と年長児に対して CAP プログラムが実施されており、その年代の子どもに声を挙げてもらうことが狙いであると見受けられ、年代を絞った施策なのかが気になった。
委 員 ③	ここでいう「児童」の定義については、18 歳未満であることが分かるように注釈を追記する等の工夫をしたほうが良いと考える。 (賛成の委員多数)
委 員 ①	CAP プログラムの授業は、小学校 4 年生だけか。中学生も実施しているか。
委 員 ④	中学校では、「自殺予防」の観点から全校に導入している。
委 員 ①	小学校も中学校も全校か。
委 員 ②	そうである。
委 員 ③	昨年度からは、一部の保育園でも開始している。
委 員 長	協議（２）中期評価の「児童からの相談件数」の表記は、委員の意見を基に事務局で検討し、表現を分かりやすくするという事でよいか。 (全員賛成)
委 員 ⑤	この「児童からの相談件数」の件数は何の数字を数えているのか。

委 員	③	児童から家庭子ども相談課に相談があった件数である。 CAP プログラムの際に児童から心配な発言があり、プログラム終了直後に、委託先や教職員経由で相談があり、家庭子ども相談課が対応した件数も含んでいる。
委 員	⑤	児童相談所が直接受ける件数は入っていないか。
委 員	③	入っていない。
委 員	②	CAP プログラムの中で、児童たちへ「私たちだけではなくて、学校の先生や市役所の人にもお話できますよ」と伝えたと、児童から「言いたい!」という発言がある。 権利を知ると、「迷惑をかけてしまうのではないか」という感覚が減ることを実感している。
事 務 局		<u>(3) セーフコミュニティの次期国際認証について</u> P.11②認知度について
委 員	①	平成 23 年の認知度は 50%くらいある。これはセーフコミュニティの初年度だと思うが、その後徐々に認知度が減っている。これについて、何か分析しているか。
事 務 局		分析はしていないが、セーフコミュニティに取り組んだ初年度は、新聞など多くのメディアに取り上げられたという状況があった。それが徐々に少なくなってきたのが現状かと思う。
委 員	①	このまま減っていくのか。次期国際認証の取得の時に、PR をどうしていくのか。
事 務 局		新しい認知度アップの取組を考えている。後ほどの協議事項の際に詳しく説明する。 <u>(4) みんなでセーフコミュニティ賞について</u> (質疑なし) <u>(5) インスタグラムを活用した情報発信について</u> (質疑なし) <u>3. その他</u> (質疑なし)

委 員 ⑥	＜各委員から＞ くるるんの赤ちゃん体験ボランティアについて 毎年夏休みに中高生の「赤ちゃん体験ボランティア」を受け入れている。今年 の定員は 30 名。中高生にとっては、保護者の姿を見て、自分が親になるときの想像 ができたり、自分が育てられてきたことの振り返りになったりしている。また、 保護者にとっては、中高生の姿を見て、こどもの成長を想像したり、自分たちにも このような時代があったと思い出したりして、中高生にも保護者にもとても素 敵な体験となっている。 登校できていない子でも、学校ではないので気軽に参加できたケースもある。
副 委 員 長	募集はどのようにしているか。
委 員 ⑥	Instagramでの情報発信や、各中学校高校へのチラシ配布による周知を行っ ている。学校内の掲示やボランティア部の先生からの紹介などがある。
委 員 ②	参加者は中高生どちらが多いか。
委 員 ⑥	高校生が少し多い。
委 員 ⑤	初期聴取キャラバンについて 児童相談所では、児童が被害を訴えた際にどのように聞き取ったらよいのか、児 童相談所職員、児童相談所配属の弁護士、検事による初期聴取キャラバンを実施 している。被害は、子どもに日々接している学校、保育園、幼稚園で最初に耳に されることが圧倒的に多く、最初の被害確認の時に不適切な誘導が入ると、後で 証拠力がなくなるといったことにもなりうる。特に性的虐待などは、何度も何度 も確認された後に児童相談所に通告されるケースがある。学校の先生には、初期 聴取の方法や、少なくとも概念だけでも覚えていただければと思う。
委 員 ③	子育て応援動画について 毎月 5 本の動画を配信し、去年は、年間 1 万回、月に約 800 回の視聴があっ ているが、まだまだ少ないと思っている。 3 分ほどの短い動画であり、子育てのヒントにもなる。委員のみなさんにもぜひ ご覧いただきたい。周囲の方にもご紹介をお願いしたい。
委 員 ①	この子育て応援動画は、主任児童委員にも紹介しているか。
副 委 員 長	主任児童委員は全員知っている。子育てサロンに参加した親たちにも紹介してい る。 4. 閉会